

平成 2 4 年北栄町議会議員研修報告書

1	日 時	平成24年7月18日(水)～20日(金)	
2	調 査 地	滋賀県湖南市 ・ 長野県飯田市	
3	調 査 内 容	(内 容)	(場 所)
		(1)障がい者雇用の促進について	カルビー・イトーク㈱
		(2)発達支援システムについて	湖南市健康福祉部 社会福祉課
		(3)グリーンツーリズムの取り組みについて	南信州観光公社
		(4)民泊体験+農業体験	太田農園
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(1)障がい者雇用の促進について</p> <p>カルビー・イトーク㈱は、企業の障がい者雇用率を達成するために作られた、親会社のカルビー食品が資本金 100%、1 億円を出資した子会社である。社員は、24 名で、障がい者が 14 名、健常者が 10 名と障がい者が多くを占めている会社である。</p> <p>知的障がい者 11 名、そのうちうち 4 名が重度障がい者である。残り 3 名が身体障害者であり、精神障がい者はいないし、また、今のところ受け入れる予定は無いという。</p> <p>企業の作業内容は、カルビー食品のみやげ物商品を中心としたパッケージ作業が主で、大変忙しい状況である。</p> <p>障がい者の雇用に関しては、人的関係や技術の向上、勤務態度など、数々の問題点はあるが、終業後の従業員同士の歓談やスキル評価などにより、向上心を上げる取り組みで業務に安定性が出ているようである。</p> <p>障がい者を雇用するということで心と体の健康管理は、通常以上の苦労もあるようだが、地域への恩返しという意識もあり、積極的な運営が伺えた。</p> <p>支援機関等に望むこととしては、①支援機関同士の連携を密にして生活の安定を確保して欲しい。②環境が変わった場合も支援を切らさない。③支援者を支援する仕組みを構築して欲しい。 というものであった。</p> <p>障がい者の雇用や支援は、熱意あるものが積極的に進めているのが実情であり、社会全体で支援するシステムを構築する必要があると認識した。</p>	

4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(2) 発達支援システムについて</p> <p>説明者である湖南省健康福祉部社会福祉課発達支援室の松浦室長の熱心な現場を踏まえた説明に感激した。まず、現場の実態をしっかりと把握し、熱意を持ってあたるという基本的な姿勢が必要であることを再認識した。</p> <p>発達障がいに対して、特徴的でもっとも大切なことは、早期対応である。そのためには、早期発見が必要であり、そのためには、しっかりと知識の習得と、気づきの実践であることを強調された。早期対応の結果、教室の荒れや数々の問題行動が減ってきて、安定した学校生活が行われている実態を説明された。</p> <p>システムとしていろいろな対応策は、どの自治体もとられていると思うが、実態として機能しているのか、もう一度再点検する必要がある。ことが進行してからでは、改善には大きな労力と犠牲を強いられるが、実態は、そのようにことが起きてからの対応が多いのではないかと。しっかりと知識の習得と、気づきの実践を通して、大事に至る前の対応をもう一度見直してみることも必要なことである</p>
4	調査結果 又は概要 (意見・感想)	<p>(3) グリーンツーリズムの取り組みについて</p> <p>研修先の南信州観光公社は、通過型の観光地から滞在型の観光地への転換をめざし、感動体験を売り物に、教育旅行誘致事業からはじめ、現在は多くの修学旅行などを受け入れ、受け入れ農家も、飯田市の周辺市町村に 300 戸余りをかぞえている。</p> <p>当初は、飯田市の名産である五平餅を作る体験からスタートしたが、宿泊希望があり、そのことをきっかけに農家民泊を進め、現在に至っている。</p> <p>グリーンツーリズム体験と同時に周辺の旅館・ホテルや施設などの利用を促し、地域全体への経済効果も出ている。</p> <p>飯田市周辺市町村の出資による公社だが、現在は、公的補助金を受け取らないで、経営し、利益も上げている。体験プログラムの 10%、農家民泊の 15%、地元旅館の紹介料 5%、また、視察研修や委託料なども収入源である。</p> <p>単に収入のみならず、地域との体験交流に大きな意義があり、受け入れ農家と修学旅行生徒のその後の交流へと発展している。</p> <p>今後の課題としては、受入れ校の増加に伴う体験プログラムの数を増やすこと。その事業の大きな意義として、受入れ団体や農家と体験者や教育旅行生との交流が相互に感動や生きがいをもたらす、継続的なものとなっている点であり、農業を基幹産業とするわが町においても、このような交流を通して、農業への理解を得たり、北栄町農産物のファン作り、あるいは、新たな生きがいや人的交流の促進という観点からも、北栄町版のグリーンツーリズムを取り組んでいく身とが大切であると認識した。</p>

<p>4 調査結果 又は概要 (意見・感想)</p>	<p>(4)民泊体験＋農業体験</p> <p>太田農園での体験は、民泊のみにとどまったが、事前に太田いく子氏の講演を聞いており、飯田市の農家民泊の先駆者として多くの人を受け入れている。</p> <p>農業環境は、決して恵まれているとはいえず、土の状態は真砂土系で、傾斜が多く、平らな農地は少ない。太田農園の主な農業としては、果樹と酪農であるが、らくのうはすでにやめている。太田農園は、谷あいの傾斜地にあり、民泊場所は、元は太田家の一室であったが、現在は、太田家は別棟に住み、母屋と別棟が民泊場所となっている。</p> <p>特別のことは何も無い民家である。ここでの体験や交流が都会人や学生に感動を与えるのである。備え付けのノートには、感動の様子があふれんばかりに書き綴られていた。</p> <p>当然、受入れ者の太田いく子氏の人柄が第一であろうが、われわれ田舎人から見れば、なんと言うことはない農家の一泊なのだが、今まで無いような異体験をした人から見れば、新たな感動を得るような環境なのだろう。</p> <p>民泊には、ハードルが高い。私生活の中へ入り込まれる心配感が、その大きな障害といわれるが、それを乗り越えるための意識改革やノウハウの習得や施設整備のあり方や補助などが必要とは思われるが、先の「(3)グリーンツーリズムの取り組みについて」で述べたように、大きな利点・効果があることを考えれば、グリーンツーリズムを民泊とセットで検討・推進することは、農業活性化のひとつにもなりはしないかと認識した。</p> <p>農業体験をした麻組楽農隊の活動については、遊休荒廃農地が増えることに対して、地域の有志がその解消にと立ち上がったものである。</p> <p>当初は、農業体験を受け入れていなかったが、南信州観光公社の進めもあり、現在は、中学生などの農業体験を受け入れており、東京の江戸川女子中学校は、3年連続で田植え体験に訪れており、専用の田も設けられた。</p> <p>退職者が主力だが、メンバーに加入希望者も多いが、会員数を限定している。ここでも、遊休荒廃農地の解消とともに、交流による感動の共有が見られる。今ある資源を生かすことと、その過程において交流を加味することによって、新たな価値を見出したひとつの事例のように認識した。</p>
<p>4 調査結果 又は概要 (意見・感想)</p>	<p>(5)まとめ</p> <p>研修先では、新たな知識や体験を得、そのすばらしさに感動し、何とかその一部でも、取り入れることはできないものかといろいろな場で、意見具申したり、話し合ったりする。だが、進展しない。それは、共通認識の欠如が大きな要因であろう。いい事例でも、それを実践するとなると多くの調整を要し、新たなシステムの構築や、時には今までのやり方を変えなくてはならない。</p> <p>今回の研修は、議会全体でその共通認識をするということも、大きな目的のひとつであった。</p> <p>参加議員の調査結果や意見・感想を共通認識として集約し、今後の議会提案の礎となることを期待したい。</p>